

あいさつは感謝の言葉



おはよう



こんにちは



さようなら



「おはよう」「こんにちは」「おはようなら」と、私たちは日々、多くの人と挨拶あいさつを交かわしています。

明るく元気な挨拶は、当人だけでなく、はたから見ても気持ちのよいものです。反対に、元気に挨拶をしても、相手から返事がないと、いやな気分になってしまいます。

では、お互いが気持ちよく挨拶を交わすためには、どのような心がけが必要なのでしょうか。今回は、ふだん何気なく交わしている挨拶について考えます。

挨拶の語源と意味



最近、全国の自治体で「あいさつ運動」や「声かけ運動」といった活動が広がっています。



都会の新興住宅地やマンションなどでは、同じ地域や建物の中に住んでいても、お互いに顔を合わせたことがないような人間関係が珍しくありません。そうした地域には、不審者が入りやすく、事件や事故が起こりやすいという指摘があります。

一方、日ごろから地域の人々が挨拶を交わし、大人が子どもたちを見守るといった意識の高い地域では、挨拶や声かけなどのコミュニケーションがしっかりと取られていて、防犯効果もあるようです。そのようなことから、今、「あいさつ運動」

が注目されているのです。

挨拶の語源は、仏教語の「二挨拶（い）ちあいいちさつ」にあると言われています。

「挨拶」という文字には、押し開くや互いに近づくという意味があり、「拶」には、せまる、すり寄りよるといった意味があります。つまり、人と人が出会い、お互いに心を開いて相手にせまっていけることが「挨拶」です。

挨拶は、良好な人間関係を築くうえで最初の一步であり、コミュニケーションの入り口とも言えます。それは、海外旅行に行った際さい、多くの人が最初に、現地語で挨拶の言葉を覚えることからも分かります。例えば、英語圏げんであれば、「ハロー」、フランス語圏であれば、「ボンジュール」、中国語では「ニーハオ」な

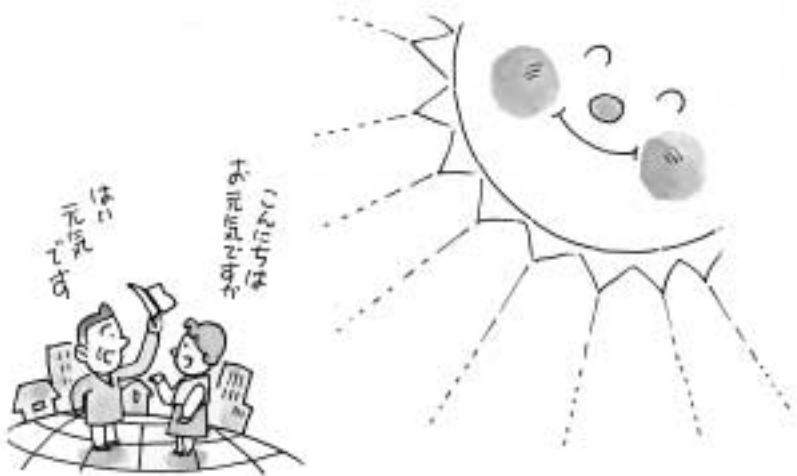
どと言います。

日本語では、言うまでもなく「こんにちは」です。そして去り際きざひには「さようなら」と言つて別れます。私たちがふだん最も多く使っている言葉の一つが「こんにちは」と「さようなら」だと言えます。

では、これらの挨拶には、どのような意味があるのでしょうか。諸説しよせつありますが、東洋思想家の境野勝悟さかひのかつのり氏は、著書『日本のこころの教育』（致知出版社）の中で、次のように紹介しています。

※

わたくしたちが知人にであったとき、「今日はこんにち」という挨拶のほかに、「お元気ですか」という表現を使っています。この二つは、それぞれが孤立こりつした応答おうたうでは



なく、「今日は、お元気ですか」と続いていた挨拶なのです。

この「今日は」の「今日」という意味は、現在では、きのう、今日きょうという意味での「今日」となっていますが、実は、古くは太陽の意味であったのです。

(中略)

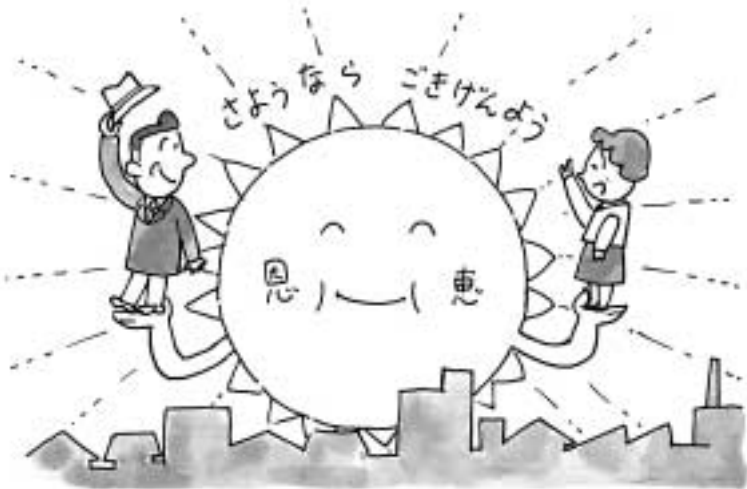
「元気ですか」の元気とは、元もとの気(エネルギー)という意味ですから、太陽の気をさすこととなります。つまり、「今日は、元気ですか」とは、あなたは太陽のエネルギーが原因で生きている身体からだだということをよく知って、太陽さんと一緒にあかるく生きていますか、という確認の挨拶だったのです。

それを受けて、「はい、元気です」と答えます。「はい、太陽さんと一緒に元気に

生きていますよ」と応答するわけです。それから、「さようなら(ば)、ご機嫌よう」となります。「機嫌」とは、「気分」とか、「気持ち」という意味です。したがって、「さようなら、ごきげんよう」の意味は、「太陽さんと一緒に生活しているならば、ご気分がよろしいでしょう」となります。

※

私たちがふだん何気なく交わしている挨拶には、このような一連の受け答えと意味があるのです。また、太陽の恩恵おんけいによつて生かされていることを感謝した、私たちのご祖先様の謙虚けんきょでおおらかな気持ちきもちが込められていることを知っておきたいものです。



挨拶は だれのため？

「おはようございますー！」

「おはよう！」

会社員の川上真一さん（28歳）は、いつものように家を出て、ご近所に挨拶をしながら元気に出勤します。

真一さんの職場までは自転車でも二十分ほどの距離です。真一さんは毎朝、始業時間よりも一時間ほど早く職場に出てきて、掃除をしたり、好きな本を読んだりして、朝の時間をゆつくりと過ごすように心がけています。

始業時間が近づくとつれて職場の上司

や同僚が出勤してきました。

最初に職場に来たのは福島部長です。

「部長、おはようございます！」

「おはよう川上君、今日も早いな」

「はい！」

それから間もなくして、先輩や同僚たちが小走りで職場に駆け込んできました。

「山岡係長、おはようございます！」

真一さんの挨拶に、山岡係長は顔を背けたまま「おつ」とひと言。そそくさと机について仕事の準備を始めました。山岡係長のそつけない態度に、真一さんは肩透かしを食ったような気持ちになりました。

「きちんと挨拶ができないなんて……」

と、心の中でつぶやいていると始業のベルが鳴り、真一さんは少し憂鬱な気持ち



で仕事に取りかかりました。

昼食時、真一さんはいつものように先輩の山崎新平さん(32歳)に誘われて社員食堂へと向かいました。真一さんは山崎さんと談笑しながら食事をしていましたが、ふと今朝の出来事が思い浮かび、そ

れとなく、日ごろから不満に思っていたことを山崎さんに話し始めました。

「山崎さん、うちの会社には挨拶もできない社員が多すぎると思いませんか。挨拶をしても返事を返さない人がいるんですよ。社会人になっても挨拶もろくに交わせないんですから、最近の若者たちが挨拶をしないのも無理ないですよね」

「そうだよな。俺もなるべく気持ちのいい挨拶をしようと心がけるんだけど、相手から返事がなかつたりすると、挨拶ぐらいしろよ！」と腹を立ててしまうんだよな」

「私なんか毎朝、山岡係長に挨拶をするのが憂鬱でしかたないです」

「ああ、おまえの気持ちも分かるよ……。そういえば、ある大学の広報誌でこん

な記事を目にしたぞ」

不満を漏らす真一さんをなだめるように、先輩の山崎さんが挨拶についてのあつ話を紹介してくれました。

それは、長年、高校の教員として駅伝えきでん

感謝を表す 絶好の言葉

運動部や体育会といえは厳きびしい上下関

係の中で、挨拶を強制されるといった印象を抱いだきがちです。しかし、平澤さんは、

「挨拶は強制されるものではなく、

自然に出てくるもの」と言い、その理由

を次のように述べています。

部の指導たすきに携わり、全国大会の常連校に育て上げた経験を持つ平澤元章ひらさわもとあきさん（現・麗澤大学助教授）が、駅伝の指導の中で、走る技術とともに挨拶の大切さを伝えていくという内容でした。

※


スポーツ活動に取り組んでいると、多くの人のお世話になって活動できるという側面があります。何よりもまず家族の



支えがあり、また学校の先生、クラスメート、職場の同僚、地域の人々など多くの方に支えられています。苦しいとき、困ったとき、一つのことを達成してうれしかったときなど、いつも自分の周囲には励まし援助をしてくれる人がいます。そのことが理解できると、自然に感謝の気持ちやお礼の言葉がわいてくるようになります、それを表現する行動としてさわやかな挨拶が出てくる気がしています。

※

実際、平澤さんが指導する大学の駅伝部の学生たちは、校内だけでなく、学外で出会う地域の人たちにも積極的に挨拶をしているといいます。地域の人たちもそうした学生たちの挨拶を気持ちよく思っています、自然と挨拶の輪が広がっているの



す。また、地域の中に学生たちを応援しようという雰囲気も生まれ、良好な関係が築かれているようです。

平澤さんは、「こんにちは」という短い言葉と行為の中には、「お元氣ですか」「お世話になります」「ありがとう」などの感謝や相手を思いやる気持ちが込められているとも話しています。

さらに、挨拶は、周囲の人たちへの感謝や思いやりの気持ちを表すことができ「絶好の言葉」であり、謙虚な人柄を生み出す一つのきっかけになるとも述べています。

謙虚な 心をつくる

「挨拶は感謝の気持ちを表すことができ
る絶好の言葉、謙虚な人柄を生み出す
か。なるほど……」

真一さんは山崎さんの話に深くうなず
きました。

小学校から大学まで野球部に所属して
いた真一さんには、スポーツに携わって
きた者として、これらの言葉が強く心に
響ひびきました。

“人の挨拶の形ばかりを見て、心の中で
批判していることが多いなあ……”。だか
ら、挨拶が返って来ないと、すぐに不満





の心がわいてくる。でも、感謝の気持ちを込めるってどうすればいいんだろう”
真一さんはそう考えながら、山崎さんにお礼を言い、職場に戻っていきました。

翌朝、真一さんはいつものように元気に出勤し、上司や同僚たちと挨拶を交わします。いつ挨拶をしても返事を返してくれない先輩もいます。一瞬、ムツとする真一さんでしたが、昨日の山崎さんの話を思い出し、そういう人にも勇気をもって明るい挨拶をしました。

「相手の挨拶がどうであれ、まずはこちらが謙虚な心をつくり、感謝の心で挨拶ができるようにしましょう。そして、職場に少しでもさわやかな雰囲気ふんいきが生まれるような挨拶を心がけていこう”
そう思う真一さんでした。

始業と終業の挨拶

挨拶は本来、目の前にいる人に行うものと考えがちですが、それ以上にもっと深い意味が込められた挨拶もあります。

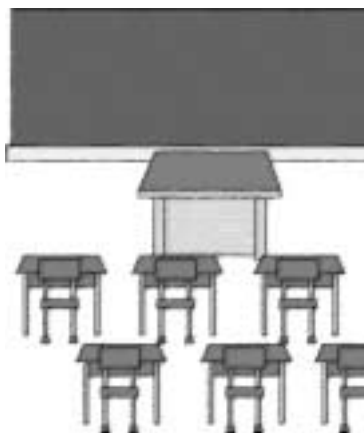
その一つが、学校授業の始業と終業時に交わす挨拶です。この挨拶の意味について、長年、学校教育に携わってきた松浦勝次郎さん（モラロジー研究所常務理事）は、母校・麗澤高等学校（千葉県柏市）在学中に経験した次のような出来事を紹介しています。

※

ある朝のことです。「起立、礼」の号令で松浦さんたち生徒が先生と始業の挨拶をして着席すると、先生が「今の挨拶は

よろしくない。もう一度やり直ししよう」と言われたそうです。もう一度やり直して挨拶すると、先生は「それでよい」と言われました。その後、先生が始業・終業の挨拶の意味を次のように説明されたと言います。

——まずはじめに、「私たちは、お互いに、誰に挨拶をしたのでしょうか」と、先生は私たちにお尋ねになりました。誰も言葉にして答えることはしませんでした。ですが、みんなは、目の前の先生にご挨拶をし、先生はそれにお応えくださったのだと心で思っていました。すると、先生は、私たちの心に答えるように、「諸君と



私の間だけの挨拶であるなら、やり直す必要はなかったかもしれない」と言われ、続けて「もちろん、始業・終業の挨拶は教師である私と生徒である諸君との間の挨拶である。それも大切なことです。しかし、始業・終業の挨拶のいちばん大切な意味は他にある。これからこの時間に、この教室で私たちが学ぶことすべては、それを苦勞して研究し、確かめ、実践し、私たちに伝えてくださった先人・先学・先賢のご苦心・ご苦勞によ

るものである。私たちは、始業・終業に、諸恩人に感謝と誓いの心を込めてご挨拶しているのである。この教科書の数行に書いてあることに命を懸け、生涯を捧げた人もあるのです」という趣旨のことを一人ひとりの心に届くように、懇切にご説明くださいました――

松浦さんは、そのときの先生の言葉が心に響き、その後、母校の教員になつてからも、いつも頭の中にあつたと言います。また、米国に留学し、大学で授業を担当した際も、いろいろな国から来た学生たちを相手にこの挨拶の話をすると、非常によく理解し感心して聴いてくれた、と振り返っています。

（親学文芸編・高橋史朗監修『続・親学のすすめ』モラロジー研究所刊、参照）

感謝の心が温かい挨拶を生む

授業の始業時に交わす挨拶には、先人への感謝と尊敬の気持ちを表す態度が含まれている。そう考えるだけで、授業を受けるときの心がまえや、教科書や本を開いて学ぶときの気持ちが変わってくるような気がします。

私たちの生活は、周囲の人々や先人の努力など、多くの存在によって支えられています。これらに対して「おかげさまで」「いつもありがとうございます」という心を持ち、挨拶という形に表すことで、身近な家族や友人はもちろんのこと、さまざまな恩人や先人にも感謝の気持ちを伝えることができます。

こうした謙虚な心ができてくれば、相手や場所にかかわらず、言葉の違う外国に行った場合でも、心を通わせる温かい挨拶が自然とできるようになるのではないのでしょうか。

